

令和3年度第8回安城市地域ケア推進会議

日時 令和4年2月17日（木）
午後1時30分～午後3時
場所 オンライン

1 会長あいさつ

先月は休会だったので今年初めての会になる。今年もよろしくお願ひします。第6波の感染者は初め若者中心だったが今は高齢者が増加しており、自宅療養者の支援で皆さん大変だと思う。病院が一番大変なことは言うまでもなく、地域で力を合わせて支援をしていかなければいけない。今は踏ん張りどころだと実感している。

2 議題

(1) 在宅医療・介護連携推進のための研修会等実施報告（資料1）

・保健福祉部会
保健福祉部会)

(資料1の通り報告)

約1年半ぶりの集合研修だった。内容のある研修ができた。

【意見】

ケアマネット部会)

当日は講師として参加した。地域に一番住民に近い職種である、地域包括支援センターと地域の生活支援コーディネーターにわたしノートの啓発ができたのが良かった。今後はノートの活用方法を協議するとより良いものになると思う。

(2) 令和3年度検討テーマ報告及び令和4年度検討テーマについて（資料2）

4部会から報告

医師会部会、小規模多機能部会、施設部会、保健福祉部会

(資料2の通り報告)

【意見】

(なし)

(3) ACPマニュアル、わたしノートの完成、配布について（資料3）

ACP作業部会 副部会長)

専門職のためのACPマニュアルとわたしノートが完成し配布を始めており、研修会を実施し周知している。作業部会は3月で一旦終了するが更なる普及、啓発が必要なのでご協力をお願いします。

会長)

昨晚ACPマニュアルとわたしノートの研修会があり約140名の参加があったとのこと。病院関係者の参加が多く、ACPは病院と地域の情報共有が大きなテーマになっていることが分かる。

【意見】

(なし)

事務局)

現在、看取り体制の目指す姿「本人が望む場所で自分らしく最期まで今を生きる」を達成するために、皆さまに安城市看取り体制プランを実践していただいている。その中で令和2年11月よりACP作業部会を設立しACPについて議論し、「専門職のためのACPマニュアル」「わたしノート」を作成することができた。ご協力ありがとうございました。この3月で作業部会は一度中断し、各部会や病院にて推進をしていただく予定である。また、あじょう広報3月号の「わたしノート」特集記事(資料3)や、アンフォーレの特設コーナーの設置、中日新聞への掲載などにより反響はとて大きく、作成した8,000冊の「わたしノート」は在庫が少なくなり増刷する運びとなった。市民の方々の関心が高く専門職からの支援が重要となるので、今後も安城市の看取り体制の構築に向けてご協力をよろしくお願いたします。「専門職のためのACPマニュアル」は在庫があるので、ご希望の方は高齢福祉課にお越しください。また、安城ホームニュースにも2月25日に掲載予定です。

【意見】

医師会部会)

安城市の看取り体制の目指す姿である「本人が望む場所で自分らしく最期まで今を生きる」の「今」が良い。最期が目標ではなく、常に今を考えながら最終的に最期。今を望む姿で生きることがとても良い。わたしノートは分かりやすく常に更新しながら今を考えて望む姿を目指すが良い。人生の折れ線グラフを書く個所は、高齢者には書き方が分からない人がいるかもしれないので例を付けても良いと思った。全体的にはとてもよくできている。

会長)

今を大切にすることとは作業部会でも議論があった。わたしノートはこれからもアピールしていただきたい。

(4) 安城市における入退院時情報共有・連携ルール作業部会について(資料4)

在宅医療サポートセンター)

(資料4の通り報告)

会長)

病院からは地域のことは分かりにくく、地域からは病院のことが分かりにくいので、病診連携は地域包括ケアシステムの中でも要の部分である。

【意見】

住まい部会)

先々月母が骨折して2週間入院した。退院後、介護の申請をするために地域包括支援センターに相談したら受けられるサービスで知らないことがたくさんあった。高齢者の退院時に今後使えるサービスが分かるパンフレットなどが病院にあると、家族は助かると思った。

会長)

病診連携の中で、そのような家族にも使いやすいツールなどの検討は入ってくると思う。作業部会のメンバーは決定したか。

在宅医療サポートセンター)

必要と思われる部会に声掛けをしている。参加を希望される方は次回の推進会議までに在宅医療サポートセンターまで連絡をお願いします。

【情報共有】

会長)

現在のコロナの状況に関して情報共有をしたい。

概要

病院部会)

愛知県は緊急フェーズⅠとなり病床の確保に努めている。発熱外来の患者や相談件数は増加しており、2月に入り予定の手術の延期、救急車の一部受け入れ制限など、厳しい状態である。病床不足やスタッフの感染による休職など、体制的にも厳しい。

訪問看護ネットワーク部会)

保健所とのネットワークについて。一部の訪問看護ステーションに保健所から連絡が集中し対応に時間を要する状況あり。受け入れ可能なステーションは他にもあり、平均的に受け入れられるよう市内でネットワークを作り情報共有することが大切。保健所は一部に偏らないよう、対応可能な訪問看護ステーションに連絡してほしい。

会長)

訪問看護ステーションは県に登録しているので保健所は知っているはずだが、医療機関への対応などで保健所機能が混乱していると思われる。地域のネットワーク作りが喫緊の課題である。

ケアマネット部会)

要介護認定者の同居家族が陽性になりサービス利用を控えるケースが増加している。ネットワークが無く対応に困るケアマネもいる。対応できる事業所に相談が集中してしまうと通常業務が停止してしまう。

会長)

各部会との情報共有が大切である。

連絡事項

事務局)

- ・在宅医療サポートセンター移転について（資料5）
- ・令和4年度 地域ケア推進会議開催日程、代表選出について（資料6）

資料の訂正あり

資料6-2

誤) 地域包括ケア推進会議 → 正) 地域ケア推進会議

- ・自立支援サポート会議

日 時 令和4年2月24日（木）午後2時～午後3時30分 オンライン開催

- ・在宅医療介護連携推進のための研修会（リハビリネット部会）

日 時 令和4年2月24日（木）午後7時～午後8時

場 所 オンライン開催

テーマ 最期までその人らしい暮らしを支える 終末期リハビリテーションの重要性

対 象 すべての部会

【質問】

(なし)

次回 令和4年3月17日（木）午後1時30分～午後3時 社会福祉会館 会議室
(変更の場合は連絡する)